

をお知らせします

した。全会計の予算総額は、69億577万円となり、平成25年度当初予算と比較して、を中心にお知らせします。なお、詳細は全戸配布されている「まちづくり読本」（予

各会計の予算は次のとおりです。

会 計		平成26年度予算額	平成25年度予算額	比 較
一 般 会 計		61億8454万円	49億7221万円	12億1233万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	3億9673万円	3億2337万円	7336万円
	後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	1億 876万円	9454万円	1422万円
	下 水 道 事 業 特 別 会 計	1億8490万円	1億8836万円	△ 346万円
	農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計	3084万円	2875万円	209万円
合 計		69億 577万円	56億 723万円	12億9854万円

みんなでつくる学びのまち

生きる力を育む学校づくり、通学合宿、新十津川農業高校支援、母村交流、生涯スポーツ推進、給食センター整備 など

学習支援サポーター・学力向上推進講師配置・・・学習環境の充実

これまでのティーム・ティーチング（教員複数体制の授業）などの取組に加え、小学校1・2年生に学習支援サポーターを、中学校1・2年生に学力向上指導講師を配置、児童・生徒一人一人にきめ細かな対応ができる体制とし、学力の向上をより効果的に推進します。

みんなでもみに歩むまち

行政区活動支援、社会福祉協議会支援、ふるさと応援寄付金推進、まちづくり基本条例啓蒙、公共施設の管理、職員管理、行政情報の発信 など

行政区自治会館整備事業・・・自治会館の改修や建替えをします

各行政区の自治会館は、災害発生時には避難所になる重要な施設です。しかし、多くの会館は老朽化が進み十分な耐震性能もありません。平成26年度から平成29年度の期間で耐震性のない7カ所の会館の建替えと、耐震性のある4カ所の会館の大規模改修や機能強化を計画しています。

平成26年度の予算

第1回町議会定例会（3月10日～20日）で平成26年度各会計の予算が承認され、12億9854万円（23.2%）の大幅な増額となりました。予算の概要について、一般会計算説明書）に掲載されています。

平成26年度に行う主な事業を紹介します。

みんなで作る住みよいまち

うちエコ診断、家庭用生ごみ処理機購入費助成、危険空き家対策、安心すまいる助成、道路整備、みどり地区雪捨場造成、地域公共交通確保 など

定住促進対策・・・住宅を取得した方に最大200万円助成（平成29年3月31日まで）

新十津川町に定住する目的で住宅を取得した方に最大200万円の助成金を交付します。さらに、中学生以下のお子さんがある場合には、町内で買い物ができる「ふれあい商品券」をお子さん一人につき15万円分交付します。（平成26年4月1日以降に工事請負、売買契約を締結した方が対象）

みんなで作る健やかなまち

子ども生活応援、障がい者自立支援、介護予防、レクワーカー養成、インフルエンザ予防接種、成人健康診査、健康づくり対策 など

乳幼児等医療費助成・・・中学生以下の医療費は無料です

中学生までのお子さんの保険診療医療費を助成します。北海道の補助制度では、対象範囲が小学生の一部で、自己負担も発生しますが、新十津川町では助成内容を平成23年度から独自に拡大し、乳幼児から中学生までの保険診療医療費の自己負担を無料にしています。

みんなで作る豊かなまち

無人ヘリコプター免許取得費助成、農産物ブランド化、有害鳥獣駆除対策、中小企業融資利子助成、地元消費拡大、各種イベント開催、しんとつかわ駅利用促進、北海道日本ハムファイターズ応援大使活用など

国営樺戸地区土地改良事業地元負担繰上償還・・・10億6102万円

昭和62年度に始まった国営樺戸地区土地改良事業（受益地区：新十津川町、浦臼町、月形町）が平成25年度で完了しました。これに伴い平成26年度から町の負担金の支払いが始まりますが、全額を一括償還することで利子の負担を抑えます。この事業の総事業費は、262億6000万円で、農業用の用排水施設や排水機場などが作られました。

みんなで作る安心なまち

消防車両更新、地域防災力強化、開拓記念館耐震補強改修、消費生活問題対策、排水施設管理など

中央地区市街街路灯更新・・・古くなった街路灯をLED化

国道275号沿線の老朽化した街路灯を、平成24年度から3年かけて省エネ効果の高いLED灯に更新しています。全部で104基の更新と18基の新設を計画しています。最終年度となる今年は、青葉区、菊水区内で38基の更新・新設を行います。